

2014年度 第2四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q1: エボラ出血熱対策としてアビガンの本格的な供給が可能となるタイミングは？

A1: 現状では超法規的な対応が、各国政府と日本政府との間でWHOとも相談の上進められており、当社としては日本政府の要請に応じて対応している。現在錠剤としては2万人分保有しており、すぐにでも提供可能。また、30万人分の原薬も有している。

Q2: 下期のヘルスケア事業の業績見通しは？

A2: メディカルシステムは計画に対して順調に推移しており、下期も同トレンドが続くだろう。医薬事業は研究開発投資が先行しているが、治験の効率化によって、できるだけ早期の利益貢献を目指している。下期は上期以上に貢献できると見ている。

Q3: 記録メディア事業でコンピューター用磁気テープの売上が好調な理由は？

A3: クラウド等で大幅に増加しているデータのバックアップ需要が高まっている中、HD に対するコスト面、安全面での優位性が評価され、バックアップ用途での磁気テープが見直されている。このような状況下、独自技術「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」を採用した当社製品の販売が伸びている。

Q4: 今期のデジタルカメラ及びチェキの販売台数目標は？

A4: もはやデジタルカメラについてはかつてのように台数を追う状況でもないが、販売台数見込みは200万台ほど。チェキについては期首計画から50万台上方修正した350万台と見ているが、更なる拡販を目指す。

以上